



神戸学園都市 ワイズメンズクラブ



THE Y'S MENS CLUB OF KOBE GAKUENTOSHI
THE SERVICE CLUB TO THE YMCA

2019年10月（通巻304号）

< 主 題 >

- ・神戸学園都市クラブ会長：杉本隆人：「広げようワイズの和、令（秩序）をもって」
- ・国際会長：Jennifer Jones(オーストラリア)：「Building today for a better tomorrow」
- ・アジア太平洋地域会長：田中博之（日本）：「アクション！」
- ・西日本区理事：戸所岩雄（彦根シャトー）：「風となれ、ひかりとなれ」
- ・六甲部長：柏原佳子（芦屋）：「スピナーカーの帆に風を集めて」
- ・2019年10月強調活動：BF・EF：前田香代子国際・交流事業主任（熊本ジェーンズ）
「国際協会の一員であることを認識し、BF/EFの目的を理解した上で積極的に協力しましょう。」

10月第1例会

- ・日時：2019年10月19日（土）10:00～
- ・場所：西神戸YMCA
- ・内容：
西神戸YMCAワイワイまつり
餅つきコーナーを担当

< 今月の聖句 >

「あなたは自分が抱いている確信を、神の御前で心の内に持っていないさい。」

（ローマの信徒への手紙 14章 22節）

10月誕生者おめでとう

- ・柴田 昌一メン(10/1)
- ・合田 純二メン(10/10)
- ・舘 みちこメネット
(10/15)

9月の出席状況

- ・在籍者 14名
- ・出席者 11名
- ・出席率 79%
- ・メネ/コメ 1名
- ・ゲスト/ビジタ 61名
- ・出席者合計 73名

9月累計ファンド成績

- ・ニコニコ 0円
- ・CS(年賀切手) 0円
- ・TOF(断食) 0円
- ・FF(家庭の断食) 0円
- ・BF(古切手) 0円
- ・東日本募金 0円
- ・Yサ・ASF 0円

[役員] 会長：杉本隆人、直前会長：田辺征一、書記：田辺征一、会計：中村 剛、連絡主事：達 直樹
[委員] 地域奉仕・環境：舘忠之、森本哲男、Yサ・ユース：内田邦彦、交流：合田純二、ファンド：野呂隆
丹家元陽、EMC：野呂隆、広報・ブリテン：田辺征一、メネット：藤井久子、杉本裕子、メール委員：田辺征一、
[六甲部役員] メネット事業主査：藤井久子 [IBC]台湾高雄ポートクラブ（2004年1月締結）
[DBC]東京武蔵野多摩クラブ（2011年6月締結） [DBC]岡山クラブ（2018年6月締結）

神戸学園都市クラブ 〒651-2102 神戸市西区学園東町2-1-3 TEL 078-793-7402 FAX 078-793-7470
事務例会：第1木曜日、第1例会：第3木曜日、クラブホームページ

<http://www.kobeymca.org/ys/gakuen/bulletin.html>

<会長通信第四号>

会長 杉本隆人

10月は、BF、EFの強化月間です。

いま、日本では、ラグビーワールドカップが開催されており、神戸ではイングランドのチームの滞在拠点が、六甲アイランドのベイシェラトンホテルになっており、先日、六甲部部会がそのホテルで開催されたのは偶然かも知れませんが、何かのご縁を感じてならない気持ちになりました。

日本のチームも、四戦四勝という驚異的な快挙を成し遂げて、目標としていたベスト8入りしました。日本のラグビーの歴史において大きな、大きな記録を更新して、決勝トーナメント進出し、ベスト4も手が届くかも知れない、素晴らしい日本チームとなっているし、俄かラグビーファンも増えて、応援ムードは最高潮です。部会が開催された日にワールドカップゲームが行われており、二次会のバーで偶然にもイングランドチームとともに観戦し、自然な国際交流したメンバーもいました。

この度の部会は、瀬戸山陰部と六甲部との合同部会となり、六甲部としても最高の参加者200名を超えるものとなりました。

また、開会前に理事懇談会を行い、理事方針について説明があり、各クラブ会長との意見交換が行われ、その流れでメネットアワーに突入し、息つく間もなく部会へと進行していき、まったく無駄のない部会となりました。柏原部長の熱き思いは、日本のラグビーチームに負けないものとなったような部会でした。 感謝



杉本会長登壇



バナーセレモニー

<10月事務例会報告>

- ・日時：2019年10月3日(木)19:00~20:30
- ・場所：西神戸YMCA
- ・出席者：内田、柴田、杉本、田辺、辻本、中村、仁科、野呂、森本、藤井、連絡主事代行 小寺

1. 報告事項

- (1) ローンボール大会 (9/14) しあわせの村
出席：合田、杉本、田辺、中村、森本
六甲部のワイズ9名の4チームで競技
- (2) 六甲部・瀬戸山陰部合同部会 (9/28)
神戸ベイシェラトンH、参加者200名
出席：杉本、田辺、中村、野呂、藤井
- (3) チャリティーラン実行委員会 (9/18)
神戸YMCA 出席：内田
詳細決定は次回の第3回実行委員会(10/17)で行う。
ラッフル券100枚を当日販売。
チャリラン個人募金は部会時に4名が寄付。

2. 協議事項

- (1) じゃがいもファンド 10/18, 13:00 搬入
北海道北見農協産男爵Lサイズ100箱
仕入れ値1,600円/1箱、総額160,000円
消費税(8%)12,800円
合計金額=160,000+12,800=172,800円(昨年と同一)
学園都市YMCA(駐車場横)で一部を荷下ろし後、丹下医院倉庫にて残りを下ろす。
販売価格は2,300円とする。
- (2) わいわいまつり 10/19
役割分担とタイムテーブル
・10/18(金)10:00 餅つき準備と米洗い
ワイズ+メネット7名(未定者含む)が担当
・10/18午後、買い物 3名が担当
この時にチャリラン用品も購入(領収書を分けること)
・10/19 8:30 集合
ワイズ+メネット14名(未定者含む)担当
他ボランティア4名
- (3) チャリティーラン 11/4
・11/3(日)10:00 餅つき準備と米洗い
ワイズ+メネット7名(未定者含む)が担当
他ボランティア1名
・11月の事務例会は10月31日(木)に行う。
チャリランの最終打ち合わせ。
- (4) 来期役員(会長・部役員候補者)選出

- ・協議の結果、会長に柴田ワイを選出
- ・Yサ/ユース事業主査の選出は持越し

3. YMCA 報告

2020年4月から西神戸YMCAで小規模保育事業を開始する。対象は0歳および1歳児。

<ローンボウルズ大会報告>

国際交流事業主催の大会が9月14日(土)にしあわせの村専用コートで行われました。連日の猛暑が嘘のような秋晴れのもと、合田ワイ夫妻や元学園都市クラブの森さん達のお世話で久方ぶりの開催でした。

わがクラブの4名を含めて9名のワイズが4チームに分かれて3ゲームを争いました。よく手入れされたジュータンのように美しい芝生の上で玉を転がして得点を競う。ゲームはカーリングに似ている。

終わってみれば、なんと、中村・田辺組が2勝1分けで優勝。快晴の青空のもと優雅なひと時を過ごすことができました。



紺碧の青空のもと記念撮影

<9月例会報告>

始めに、関西学院大学フラサークル「マハロ」の指導者でもある石田由美子ワイ(宝塚クラブ)から「フラを通して学ぶアロハスピリットパートⅢ・もう一つのハワイ」と題してお話しいただい



多くの方が来られ盛況でした。

た。フラの曲には史実に基づいた人々の熱い思いがあることを学ぶ。当日は、9名の女学生によるフラが3曲披露された。曲に合わせて腕を振り口ずさむ人もおられ、会場の多くの皆様と共に若いエネルギーをいただきました。



フラサークル「マハロ」の出演者・ビジターと
“ハイ、チーズ”

<六甲部・瀬戸山陰部合同部会 メネットアワー報告>

藤井久子(メネット事業主査)

9月28日(土)部会開始前のメネットアワーで行われたCAP岡山代表の山下明美氏の講演『子どもの虐待・・・その予防のために』を報告します。

昨年度の児童虐待の相談件数が約160,000件(通告があり受理された数字)であり、大きな問題として取り上げられている。講師から「親から叩かれたことのない人」「子どもを叩いたことのない人」の質問に挙手したメンバーが少数で残念な結果だった。

虐待には、身体的、性的、心理的、ネグレクトがあり、DVの現場をみせることも虐待になるとのこと。体罰は、子どもをコントロールするため(大人の感情のはけ口)に使われ、持続力がない、心理的成長を妨害、見ている子供を支配・無力感にさせる、エスカレートすると取り返しがつかなくなり、虐待死になることもある。子どものへの暴力は、力の不均衡により起こり、暴力を受けると恐怖心を覚え、弱い者いじめ・暴力をして良いと思わせてしまう。暴力は、人権侵害であり認められるものではない。自らの気持ちを知っておくと現状を知ることができ、腹が立った時の対処方法を知っていると暴力を使わずに済ませることができる。子どもの虐待を防止するために、安心できる関係を紡いでいくことが大切である。



“テーブルTの皆さん” “はいパチリ”
神戸ベイシェラトンHにて

「エーゲ海クルーズ紀行 ギリシャの休日 11 日間」(第 3 回)

9 月 17 日 (月)

AM10:30 セレスティアル オリンピア号に乗船。約 37,500 トン、全長 215m (私のドライバーショットでは海に落ちない長さ) 巾 28.4m 乗客定員約 1,600 名 乗員数 100 名 デッキは 1~10 まであり岸壁から見上げると首が痛くなる高さ。今まで九州航路のフェリーでも大きいと思っていたが、はるかに大きい。しかしこれでも中~小型らしい。エーゲ海クルーズには、これ位が適当との事。まず 3F の船室に入った印象。アツ広い! 四角窓の向こうに青い海が見える。出発前「約 11 m²程で狭いですよ」と、ずっと言われ続けていた。でも洗面台、トイレ、シャワールームもコンパクトに確保されていて、さすがにスーツケースはベッドの上で広げないといけませんが、必要な物を出しておけば、すんなりと収納出来て一安心。そして、乗船と同時に乗客に義務付けられているのが救難訓練。AM11:00 短い汽笛 7 つに長い汽笛 1 つで直ちに船室内の救命胴衣を持って 7F の指定番号の場所へ集合。この時エレベーターは止まっている前提なので階段を昇る。そしてデッキの頭上には、いざという時に乗る同じ番号の救命艇が。訓練終了と同時に、喉の渇きと空腹感が。いつの間にか船は動き出している。ツアー一行 13 名で広い広いメインレストランへ。まずは冷たいビールで乾杯し、アラカルトで注文。薄くスライスしたスイカでフェタチーズをサンドし、ピスタチオをトッピングした前菜で爽やかにスタート。次は季節の野菜と豆のポルシチスープでほっこりと。メインはクロックマダムと言うらしい。スモークターキー、ハム、トマ

トのクリームグラタンをカントリーブレッドでサンド。これは美味。そしてこの時には白ワインがなみなみと注がれていて大満足。ギリシヤワインもいける。デザートはチョコレート、バニラ、ストロベリーのアイスで終了。PM6:00 のミコノス島着までまだ時間がある。船室に戻りシエスタ。これがクルーズならではの魅力の 1 つ。ミコノス島は水深の関係で着岸できないので沖合約 1 km の所からテンダーボート(約 70~80 人乗りの舢舻)のピストン運転で上陸。家々の白い壁が夕日に映えてまぶしい。波止場横のセント・ニコラス教会、パラポルティアニ教会も小さいが白一色で美しい。細い路地の両側にはジュエリーショップ、土産物屋さん、カフェ、レストランがひしめくミコノス・タウンに入る。迷路のように道が入り組んでいるが、道の低い方に行くと必ず海に出るので、迷子になるのが楽しみな所。この先のアノ・ミリの丘にあるのが有名な 6 つの風車。ここは風が強く、その昔には小麦を挽いていたのだろう。その向こうに沈む夕日目当てに大勢の観光客が。

PM8:30 帰船し、早速レストランへ。まずは冷たいビールが喉に素っ飛んでいき、前菜は野菜のチーズ巻き、次に卵と野菜のスープが胃に心地いい。メインはバターを中に詰めたチキンフライで、白ワインの出番。デザートはさっぱりとしたアイスクリームでフィニッシュ。お休みなさい。

9 月 18 日 (火)

AM7:30 トルコのクシャダスに入港。バスに乗り 2 度目のエフェス遺跡観光へ。今回は海から入る。ギリシヤ・ローマ時代はすぐ前が海だったというが、今は海から約 2 km 離れている。トルコ カップアドキア大学日本語学科卒のベテランガイドさんがトルコ愛を熱く語っていた。北の入口から入る。まずは上のアゴラ(集会所とか市場の意味)。NIKE(ニケ…ナイキの語源)のレリーフを見、ヘラクレスの門をくぐり、ハドリアヌス神殿へと下る。足元の大理石には、細い溝が横に約 5 cm の中で刻まれている。馬車のスリッパ止めとの事。へー。古代の公衆トイレは下に水が流され、水洗便所になっている。突き当りのケルスス図書館は 2 階建てで、壁のレリーフが美しい。その前の地下道を通れば娯館に続いているのに納得。その先には 24,000 人収容の大劇場があり音響効果抜群で、今もコン

サートの準備中。船に戻り、昼食はビュッフェ方式で、勿論ビールとワインは欠かせない。

シエスタ後 PM5:30 神秘の島パトモス島着。テンダーボートで上陸し、聖ヨハネが暮らしたという狭い洞窟の見学。そして山の上の急坂を昇った所の聖ヨハネ修道院へ。長い顎鬚に黒い帽子、黒い僧衣を着たギリシャ正教の修道士さんがあちらこちらに。ここから見える眼下の港

町の夜景と沖に停泊しているオリンピア号のイルミネーションが美しい。船に戻っての夕食。乾いた喉に冷えたビールが滑り込む。まずはタコのカルパッチョ、チキンとレモンのスープ、そしてメインはローストビーフにマッシュポテト添えには勿論、赤ワインが必須。デザートはチョコレートケーキで、次第に夢の中へ。

(丹家元陽)

<今月の聖句>

「あなたは自分が抱いている確信を、神の御前で心の内に持っていなさい。」

(ローマの信徒への手紙 14 章 22 節)

「内にみつける」

3人の子どもが一番大切な宝をどこに隠せばいいかと話し合いました。彼らにとって一番大切な宝は神様でした。

1人目の子どもは言いました。「宇宙の果ての果て、太陽のずっと向こうなんかどうか。望遠鏡でも見るができない遠くに」。しかし、科学が進歩するとすぐに見つかってしまうということになりました。2人目の子どもは「それじゃ深い海の底、誰も行ったことがない真っ暗な海の底なんかどうだろう」。しかし、これも科学が進歩し、人間が海洋牧場のために開発しはじめたら見つかるのは時間の問題のように思われました。すると3人目の子どもが叫びました。「それじゃ人間の中はどうか。自分の中に隠すのはどうか」。みんなそれがいいと賛成し隠しました。ところが、人間の心はあまりにも深く、見つけることができなくなってしまいました。せつかくの大切な宝がそこにあるのに、いまでは誰も神様を自分の中に見つけることができないのです。

何かに行き詰まったとき、そっと自分のうちにおられる神様をみつけてみてください。あなたを本当に支えておられる存在があるはず。奥深く隠している存在こそ大切です。

西日本区チャプレン立野康博（熊本ジェーンズ）

西日本区理事通信 2019年10月号から転載